

＜小学校家庭部会＞

I 研究主題

「評価規準を活用した個に応じた指導と評価に関する研究開発」

II 研究の概要

家庭部会では、平成13年度・14年度の研究成果を踏まえ、指導と評価の一体化を目指し、次の2点を重点に研究を進めた。

1 個に応じた指導の工夫

一人一人の児童に、基礎・基本を確実に身に付けさせることが個に応じた指導の基本であると考え、そこで、実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習を展開し、「努力を要する」と判断される児童への具体的な手だてを具体的な評価規準と指導案に組み込み、きめ細かな指導を心がけ、基礎・基本の定着を目指し、学習につまずいている児童への言葉かけや、資料の活用、ティームティーチング（担任、ゲストティーチャー）等の多様な指導方法を取ることにした。

このような工夫をすることで、「努力を要する」と判断される児童が「おおむね満足できる」状況に、「おおむね満足できる」と判断される児童が「十分満足できる」状況へと変容し、家庭科の基礎・基本の定着へつながった。

2 評価の工夫

個々の児童の評価の結果を生かした指導をするとともに、その後の指導を工夫・改善し、さらに評価を行うことが大切である。学習活動中には、教師が座席型評価記録を利用し、活動中の児童の評価を行った。また、評価の4観点をワークシートに組み込み、観点をずらさないで評価ができるよう評価方法の工夫をした。

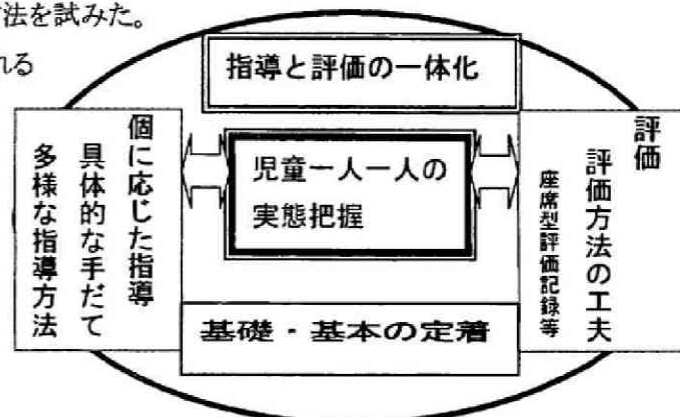
一人一人の児童の評価を確実なものとすることにより、家庭生活に関心をもち学習意欲を高め生活をより良くしていこうとする態度を育てるよう、指導と評価の一体化を試みた。

III 研究の内容

今年度は、学習指導要領の内容(2)「衣服への関心」から、「洗たく名人になろう」と内容(4)「食事への関心」内容(5)「調和の良い食事のとり方」から「レッツ トライ！わが家の食事作り」の2事例を開発し、この事例を基に指導と評価の一体化を試みた。

指導と評価の一体化を進めるために、以下のような方法を試みた。

- ・ 具体的な評価規準と「努力を要する」と判断される児童への手だてを指導計画へ位置付ける
- ・ 児童一人一人の実態把握
- ・ 学習につまずいている児童への言葉かけや助言
- ・ 座席型評価記録やワークシートを利用した評価の工夫
- ・ 資料の活用
- ・ ティームティーチング



IV 指導事例

(1) 題材名 第5学年 「洗たく名人になろう」

- 題材の目標
- ・洗たくに関心を持ち、進んで洗たくしようとする。
 - ・衣服の種類や汚れに応じた洗たく、環境を考えた洗たくの仕方を工夫できる。
 - ・手洗いによる洗たくができるようにする。
 - ・衣服を気もちよく着るために洗たくなどの手入れの仕方が分かる。

① 指導計画と評価規準

【学習指導要領 内容(2)「衣服への関心」の評価規準】

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
衣服に関心を持ち、日常着を気もちよく着たり、手入れしたりしようとしている。	衣生活を見直し、日常着の着方と手入れについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。	日常着の着方と手入れに関する基礎的な技能を身に付けている	衣服の働きが分かり、日常着の着方と手入れについて理解している。

【題材名「洗たく名人になろう」の評価規準】

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
・日常着の手入れに関心を持ち衣服を大切に扱う。 ・気もちよく着るために手入れをしようとしている。	・衣服を気もちよく着るために日常着の手入れを考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・考えた手順で手洗いによる洗たくができる。	・洗たくの順序が分かる。 ・洗たくの必要性、仕方が分かる。 ・洗たく以外の手入れの仕方が分かる。

「努力を要する」と判断される児童への具体的な手だてを評価規準に組み込み指導にあたった。

【指導と評価の計画】 (4時間扱い) (吹き出しは児童の気付き)

小 題 材 ○ねらい・学習活動 (時間)	学習活動に即した具体的な評価規準 <評価方法>							
	関心・意欲・態度		創意工夫する能力		技能		知識・理解	
	B	手だて	B	手だて	B	手だて	B	手だて
1 洗たくをしよう ○手洗いの洗たくを通して洗たくの手順が分かる。 ○進んでくつ下を洗たくする。 ・基本的な洗たくの手順を知る。 ・手順に沿って、洗たくをする。 (1時間)	(関①)くつ下の洗たくに意欲的に取り組んでいる。 <観察>	うまいかないところを確かめ、いっしょに実習する。	<p>・どうしてこんなに泡だらけになってしまったのかな？</p> <p>・思い切ってもっとごしごし洗って大丈夫だよ</p> <p>・すすぎの水がまだにごっているね</p> <p>・いつまで洗っているの？</p> <p>・あまり力を入れすぎると伸びちゃうよ</p> <p>・干したら水がたれちゃったね</p>				(知①)洗たくの順序がよく書き込まれている。 <ワークシート①>	板書を確かめるよう助言する。
2 めげせ洗たく名人 ○洗たくの問題点を見つけ、むだのない自然にやさしい方法を考えることができる。 ・洗たくでわからなかったことや工夫したことを発表する。 ・わからなかったことなどを調べて解決する。 (1時間)	(関②)自分なりの問題点を見つげることができる。 <観察・ワークシート①>	前時の実習でとまどったところなどを思い出そう助言する。	<p>・洗剤や水はどの位入れればよかったのだろう？</p> <p>・すすぎは何回くらい水をかえればよかったのかな？</p> <p>・どんなふうに残れば汚れがしっかり落ちるのだろう？</p>				(知②)洗たくの必要性、仕方を理解している。 <ワークシート①>	前時のワークシートを見たり、実習を思い出そう助言する。
3 みんなそろって洗たく名人 ○自分で選んだ物の洗たくができる。 ○気もちよく着るための手入れの仕方が分かる。 ・自分の考えた方法で自分なりの工夫をいれて計画を立て、洗たくをする。 ・洗たく以外の手入れについて考える。 (2時間)	(関③)気もちよく着るために、洗たくの計画に意欲的に取り組んでいる。 <ワークシート②>	記入内容を具体的(水の量、洗剤の分量など)に助言する。	(創①)自分なりの工夫をして洗たくの仕方を考えようとしている。 <ワークシート②>	前時の問題点や解決方法を参考にしながら考えるよう助言する。	(技①)自分が考えた方法を取り入れ、手洗いによる洗たくができる。 <観察>	自分なりの工夫を確認させたり、手順などを具体的に助言する。	(知③)洗たく以外の衣服を気もちよく着るための手入れの仕方が分かる。 <ワークシート②>	家でどのようなしているのか様子を思い出そう助言する。

②洗たくの試し実習を通した指導と評価の工夫の事例 (BからAの学習状況を実現した児童の様子)

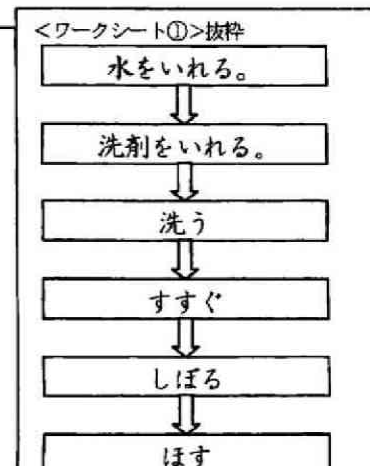
事前の調査で、熱心に家庭での様子を聞き取ってきた児童Aに対し、意欲をもって実習をさせ、次時への問題把握ができるようにしたいと考えた。

ア 小題材名 洗たくをしよう (1/4時)

イ 本時の目標 ・手洗いの洗たくを通して基本的な洗たくの手順が分かる。
・進んでくつ下の洗たくができる。

学習活動	〔学習活動に即した具体的な評価規準〕 (評価の方法)	児童の様子	■教師の手だて
I 君の事前の実態調査 洗たく・・・好き 洗たく経験・・・あり 方法は?・・・洗たく機を使って。下洗いにも気付いていた この結果から、手洗いによる洗たくの授業を楽しみにしていると把握した。			
第1時 ・基本的な洗たくの手順を知る。	〔知①〕 洗たくの手順が書き込まれている。(ワークシート①)	家庭での事前学習のことを思い出しながら、手順を理解しワークシートに記入できていた。	■①家庭での事前学習で、汚れのひどいものは、洗たく機で洗う前に下洗いをするにまで気付いていたのでワークシートにも記入しておくよう助言した。
・手順にそって洗たくをする。	くつ下の洗たくに意欲的に取り組んでいる。〈観察〉	固形石けんと粉石けんの2種類を使って洗おうとしている。	■②使い方はそれでいいのかと声かけをする。 ■③2種類の石けんを区別して使っているのか確認してみる。
	汚れているところは つまんで洗うときれいになるんだ。	粉石けんは水にとかして、固形石けんは、汚れているところに直接こすりつけて洗っている。	■④この汚れはきれいにならないかな?と聞いてみる。
・洗たくをしてみたの疑問点、問題点、自分なりに工夫したことなどをワークシートに記入する。	洗たくをしている様子、ワークシートから、評価規準「関心・意欲・態度」については、十分満足できる：Aと判断した。	洗い方をもみ洗いやつまみ洗いで上手に汚れを落とし始める。	■⑤事前に調べてきた下洗いに着目させ、家ではどんなふうに使っていたかを考えるように助言する。
		ワークシートに、汚れのひどい部分をきれいにするにはどうしたらよいかを工夫点にしっかりまとめる。	

本時では導入に体験的な学習「試し実習」を取り入れ、児童の洗たくへの意欲の高まりを目指した。
学習活動時には、具体的な評価規準Bとそれを実現していないと判断される児童への手だてを盛り込んだ。それにより児童への言葉かけや、アドバイスをよりの確なものにすることができた。
洗たくの試し実習時には、座席型評価記録を使い、評価の観点を絞って記録を取り、評価のポイントがずれないようにした。また、事前の実態調査を座席表に載せ、経験のない児童をあらかじめ把握した。
このような指導と評価の工夫をすることにより、おおむね満足に達しない児童をおおむね満足できる状況に変えることができ、基礎・基本の定着が図れたと考える。



③ 座席表を利用した指導と評価の工夫（第1次より）

授業前の事前アンケート等から学級の実態・児童個々の経験・思いなどを知り、児童の活動やつまづきを予測する。それを授業における児童への手だてに生かしていく。

座席型評価記録（例）

座席表	小題材名	「洗たくをしよう」	
学習活動に即した 具体的な評価規準	①洗たくの手順が書き込まれている。【知】	（ワークシート）	
	②くつ下の洗たくに意欲的に取り組んでいる。【関】	（観察）	
授業内の評価の観点をしぼり、本時は②を重点的に評価する。①の知識・理解については授業後に授業中の簡単なメモやワークシートを見て、評価していく。			

事前の実態調査から洗たくの経験を記号で記入しておく。
（本時の例）

- ◎：体育着などの手洗いの経験がある。
- ：ハンカチ、くつしたなど、小物の手洗いの洗たく経験がある。
- ：手洗いの洗たくの経験がない。

授業中の活動の様子：本時のスタート時には、H児は、洗たくの方法がよく分からず、手が進まなかった。そこで、きれいになると気持ちがいと声をかけ、友達の様子を観察しよう助言したところ最後には、洗い方を試しながら、取り組めるようになった。

B児 ○		D児 ○	E児 ◎	G児 ○	H児 ■
くつ下の片方を先に洗い汚れ落ちを比較 A		洗剤の説明を見て量を考える A	いろいろな洗い方を試している。 B	干し方にこだわる B	消極的励ます。 C→B
C児 ◎			F児 ◎		I児 ○
絞り直し			洗たく板使用		手袋のようにして洗う

具体的な評価規準【関②】
くつ下の洗たくに意欲的に取り組んでいる、の評価



④ ワークシートを基にした指導と評価の工夫

このワークシートは、具体的な評価規準の関心・意欲・態度②と知識・理解②の評価を効果的に実施するために使用した。

<関②>自分なりの問題点を見つけることができる。

<知②>洗たくの必要性、仕方を理解している。

<p>めざせ、洗たく名人！！</p> <p>○疑問点 △工夫点</p>		<p>5年(組名前)</p> <p>わかったこと</p>
<p>○どのくらい水をいれるのか</p> <p>△おふろの残りの水を使う</p>	水	<p>洗たくもの重さの20倍の水をいれる。 ながめるとよごれがよくおちる。 ・4ℓの水に3gくらい。 ・石けんはよごれているところにすりつける。 ・よごれがひどいときは洗たく板を使う。 ・もみ洗い、おし洗い</p>
<p>○洗剤の量はどれくらい</p>	洗	
<p>△洗たく板を使う</p>	シ	

第1次の実習での経験が生かされて、汚れを落とす洗剤の種類に疑問をもったのでBと評価した。「2種類使ってもいいんだよ」と助言をすると、この児童は『どんなふうにも2種類の洗剤を使い分け洗たくをしたらよいのか』という疑問に変えた。

実習を通して汚れが落ちるのを実感でき、洗たくの仕方が理解できたので、Bと評価した。更に、事前学習での『野球のユニフォームの下洗い』に着目して、石けんの使い方にも気付いた。

前時の学習を基に、ただ洗剤の使い方の疑問でなく、汚れによって2種類の洗剤を使い分けるところまで考えが深められたので、〈関①〉の評価は十分満足できる状況：Aとした。

家庭での洗たくについて助言したことで、洗剤の使い方、汚れの落とし方については、確認された手順からさらに詳しい汚れの落とし方まで深められたので〈知②〉の評価は十分満足できる状況：Aとした。

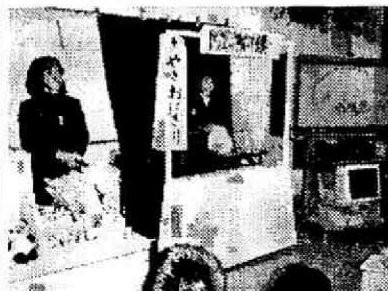

このワークシートは第1次と第2時に使用した。洗たくの問題点を見つけ解決していく過程が1枚のシートにまとめられたので、2時間の活動が結びつけやすくなり、児童の変容を把握するために効果的であった。

② コマーシャル大会を通した指導と評価の工夫の事例（CからBの学習状況を実現した児童の様子）

第1時の学習では関心・意欲・態度の評価が「努力を要する」と判断される児童Aに対し、第2時までの間に随時個別に手だてを取り、意欲をもって第2時の学習に取り組めるようにしたいと考えた。

ア 小題材名 おすすめ料理 コマーシャル大会 発見食事の計画づくりのこつ（2/8時）

イ 本時の目標・料理の多様さに関心をもつ。・食事の計画づくりに大切なことを見つける。

学 習 活 動	[学習活動に即した具体的な 評価規準] <評価の方法>	児童の様子	■教師の手だて																				
<p>児童Aの事前の実態調査 栄養のバランス・・・時々考える 調理実習家庭での実践・・・時々する 調理の手伝い・・・いつもする この結果から家庭での調理の手伝いに意欲的であることを把握した。</p>																							
<p>第1時</p> <ul style="list-style-type: none"> わが家のおすすめ料理をみつける。 大会への計画を立てる。 <p>料理を考えることができず、ワークシートにも記入できなかったで、評価規準「関心・意欲・態度①」については、おおむね満足に達していない：Cと判断した。</p>	<p>[関①] わが家の味に関心もち、おすすめ料理をワークシートに記入している。<ワークシート①></p>	 <p>ワークシート①</p>  <p>意欲的になる</p> <p>発表への自信をもつ</p>	<p>料理名無記入、不十分な料理図 好きな食品などから料理名を考えるよう手だてをとったが「おすすめ料理はない」と答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■①家ではご飯炊き等を良く手伝っているとの情報を担任から得る。 ■②個別に料理名の相談「ご飯炊きをいつも手伝っているんだね。料理名はゆっくり考えて」と励ます。 <p>料理名「ご飯」に決め、簡単に図も書いてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■③一緒に作業し、料理図を仕上げる。 ■④「発表に模型を使ったら」とアドバイスする。 <p>綿などを使い簡単なご飯模型を作る</p>																				
<p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> コマーシャル大会でおすすめ料理を発表する。 食事の計画づくりで大切なことを知る。 <p>活動の様子・ワークシートから「関心・意欲・態度②」「知識・理解①」をおおむね満足できる：Bと判断した。</p>	<p>[関②] おすすめ料理を発表し、友達料理の良さに気づき、発見記号を書いている。<ワークシート②></p>	<p>第2時当日</p> <p>発表が心配と訴えてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■⑤セリフを短くし、練習させる。 ■⑥セリフを書いたカードを用意する。 <p>上手くできるか心配と訴えてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■⑦セリフを書いたカードを提示できるように準備しておく。 																					
<p><ワークシート②>抜粋</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>献立</td> <td>豚肉炒め</td> <td>煮物</td> <td>パス</td> <td>ご飯</td> </tr> <tr> <td>記号</td> <td>カ</td> <td>タ</td> <td>シ</td> <td>ア</td> </tr> <tr> <td>感想</td> <td>体によい</td> <td>どんな味</td> <td>何味</td> <td>たき たて 最高</td> </tr> </tbody> </table>		No	1	2	3	4	献立	豚肉炒め	煮物	パス	ご飯	記号	カ	タ	シ	ア	感想	体によい	どんな味	何味	たき たて 最高	<p>本時では、わが家のおすすめ料理を発表する「コマーシャル大会」を通し、たくさんの料理に関心もち食事作りの計画に生かせるよう指導と評価の工夫を試みた。発表に向けて様々な助言をすることで児童の意欲が徐々に高まっていることが分かる。また、ワークシートには一人一人の料理について感じたことを記号化（カ・・・体によさそう、タ・・・食べてみたい、ア・・・おいしそう、シ・・・新メニュー）記入の簡略化や見やすさを目指した。児童は、友達の発表をていねいに聞き取り、料理への関心を高めることができた</p>	
No	1	2	3	4																			
献立	豚肉炒め	煮物	パス	ご飯																			
記号	カ	タ	シ	ア																			
感想	体によい	どんな味	何味	たき たて 最高																			

③食事の計画を通した指導と評価の工夫

ア 小題材名 これならできる おすすめメニュー・個別アドバイスタイム (3, 4/8時)

イ 本時の目標 ・食品のバランスを考えて、自分なりに工夫をして一食分の食事の計画を考える。
 ・食事の計画のアドバイスを聞き、それを生かして調理計画を立てることができる。

学習活動	教師の働きかけ (予想される児童の活動)	〔学習活動に即した具体的な評価規準〕と ＜評価方法＞
<p>朝食のとり方を振り返ろう</p> <p>○朝食の働きを確認し、自分の朝食のとり方を振り返る。</p> <p>休日の朝食作りの計画をしよう。</p> <p>○食事の計画の立て方のポイントを確認する。</p> <p>・一食分の食事の計画の立て方の手順を知る。</p> <p>○三つの食品群を組み合わせて、休日の朝食のおかずを考える。</p> <p>・盛りつけ図を描く。</p> <p>・食品を食品群に分類し、バランスを調べる。</p> <p>・不足する食品群を補うおかずを考える。</p>	<p>本時の学習のねらいを知らせる。</p> <p>・食品をバランスよく組み合わせて食べているか、自分の朝食のとり方を振り返らせる。</p> <p>○食事作りで大切なことを確認する。</p> <p>盛りつけの色どりをきれいにしたい</p> <p>栄養のバランスが大事ななあ</p> <p>味つけをうまくしたい</p> <p>調理方法や調理時間も大切だ</p> <p>・食事の計画作りの手順を踏むと、食品のバランスが取りやすいことに気づかせる</p> <p>・ごはんのみそ汁に合う茹でたり、炒めて作る主なおかずを考えさせる。</p> <p>・調理時間は、一人15分位とする。</p> <p>主なおかずが思いつかない</p> <p>どの食品群に入るのか分からない</p> <p>料理の作り方が分からなくて</p> <p>母の好きな半熟の目玉焼きを作ろう</p> <p>・聞きたいことなどをまとめておくよう伝える。</p>	<p>〔学習活動に即した具体的な評価規準〕と ＜評価方法＞</p> <p>「努力を要する」と判断される児童への手だて</p> <p>〔創①〕 自分なりの工夫をし、ごはんのみそ汁を中心とした一食分の食事の計画を記入している。＜ワークシート③＞ 今までの調理経験や、「食事の計画のポイント」などを参考にしよう助言する。</p> <p>〔知②〕 調和のよい食事の整え方が分かり、食品を働き別に分類できる。＜ワークシート③＞ 食品の図を参考にして、調和のよい食事になるよう助言する。</p> <p>〔技①〕 ゆでる炒めるなどの調理法で作るおかずを取り入れて、一食分の食事の計画を立てている。＜ワークシート④＞</p>
<p>アドバイスタイムスタート</p> <p>・助言を聞いたり疑問点をたずねたりする。</p>	<p>材料がよく分からなくて</p> <p>料理の作り方が分からなくて心配</p> <p>分量がよく分らないところがあります</p>	<p>調理経験や絵カードなどを参考にして料理を考えさせたり、手順や材料などを具体的に助言する。</p>
<p>アドバイスを生かして調理計画を立てよう</p> <p>・調理計画表を作る。</p> <p>・アドバイスを取り入れて、食事の計画に自分なりの工夫をする。</p> <p>・立てた調理計画をもとに実習への見通しをもつ。</p>	<p>計画がうまく立てられそうだ</p> <p>分らなかつたことが分かつたぞ</p> <p>どんな工夫をすればいいのかな</p> <p>・材料等の準備をするよう伝える。</p>	<p>〔関③〕 アドバイスに関心をもち、修正付け足しを書いている。＜ワークシート④＞ 記入内容(手順や分量など)を具体的に助言する。</p>

【個に応じた指導と児童の変容の様子の具体的な例】

本時では、小題材の目標バランスのよい食事の計画を立てる上で評価規準に照らし合わせて、「主なおかずが思いつかない」、「食品のバランスが考えられない」、また、「調理方法や手順、材料や分量が考えられない」などのつまずきが予測されると考えた。朝食の実態調査、これまでの学習の記録などから本時に気を付けて見ていきたい児童を中心に、座席表(次頁)に●▲などの印を付けて本時に手だてを工夫した結果、次のような児童の変容をとらえることができた。

ア 児童Aの学習状況の様子

* 学習前の実態調査 ワークシート 「1日の食事の実態調査」から(朝食分)

食品群の色	赤の食品	緑の食品	黄色の食品	気づいたこと		
主なはたらき	主に体をつくるものになるもの	主に体の調子を整えるもの	エネルギーのもとになるもの			
食品名	魚肉卵 大豆 とうふ	のり 小魚 牛乳	色のこい野 色の薄い野菜・果物	気づいたこと		
料理名	ウインナー 玉焼き みそ汁	わかめ	ぶどう			
児童A	ウインナー 玉焼き みそ汁	わかめ	ぶどう	ごはん じゃがいも	バター 油 マヨネーズ	バランスよく食べていた

* つまづきが予想される児童に座席表への記号を記入

* 実態調査からの児童Aの評価
食品のバランスがよいと児童Aは考えたが、緑の食品が果物であった。本時では、果物ではなく野菜でバランスを取るようにならせたといふことを考える。

◆【創意工夫】 ●【技能】 ▲【知識・技能】

(座席表の一部)

① ◆
② ●
③ ▲

児童 A

◆印：果物は食品として野菜と違う点を考えさせ野菜で補う方法として、5年生の学習で実習した野菜をゆでる料理を考えさせた
●印：調理時間やできあがりを考えて、計画を立てるように助言した。

児童A (BからAの学習状況を実現した児童) の評価

評価規準「創意・工夫」については事前調査の「朝食のまとめ(気づいたこと)」で野菜が不足していたが、「バランスよく食べていた。」と記入していた。本時の導入で行った「自分の朝食を振り返る」で、野菜が不足していたことに気が付いた。「朝食作りの計画」では果物ではなく野菜を意識して取り入れたことが書かれていた。また、栄養のバランスだけでなく、味や色も工夫しバランスのよい計画を立てることができていたので評価規準：Aであると判断した。

イ 児童Bの学習状況の様子

食品群の色	赤の食品	緑の食品	黄色の食品	気づいたこと
主な働き	主に体をつくるものになるもの	主に体の調子を整えるもの	エネルギーのもとになるもの	
食品名	魚肉卵 大豆 とうふ	のり 小魚 牛乳	色のこい野 色の薄い野菜・果物	気づいたこと
料理名	おにぎり ミートボール	のり	おにぎり	
児童B	おにぎり ミートボール	のり	おにぎり	なし

赤の食品群におにぎりとして記入、具の中に赤の食品群が使われていたからである。また、気づいたことが「なし」となっている。食品のバランスについて気付かせたい。

◆【創意工夫】 ●【技能】 ▲【知識・技能】

(座席表の一部)

① ◆
② ●
③ ▲

児童 B

◆印：5.6年生で学習した調理を思い起させ、赤の食品を使ってできる料理をあげさせた。
▲印：教科書の食品群の図を参考にして三つの食品群が使われているか見直すよう助言した。

児童B (CからBの学習状況を実現した児童) の評価

評価規準「創意・工夫」については、本時の評価では主なおかずには粉ふきいもを書いていたので「努力を要する」状況と判断したが、上記の助言で教科書やレシピ集を見ていり卵を主なおかずには書くことができた。
評価規準「知識・理解」については、食品の主な働きのグループ分けで分類に手間取る食品があった。助言をもとに食品群の図を参考にワークシートに書くことができたので、評価は「おおむね満足できる」状況と判断した。

本時では、食事の作りの計画を立てる際に、アドバイスタイムを設け、それを生かしながら自分なりの計画が立てられるよう指導の工夫を計画した。
学習前の事前調査から一人一人の児童に問題点を投げかけ、解決への手だてをアドバイスすることは、学習につまづいている児童や、工夫を取り入れたい児童に有効であったことがワークシートや観察により把握できた。

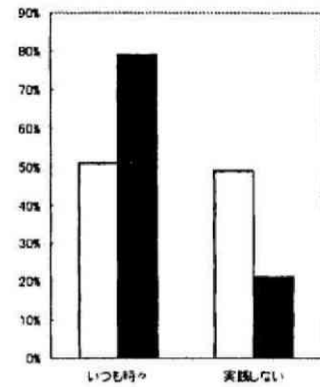
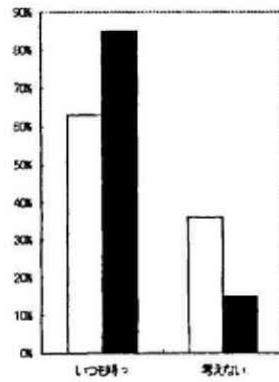
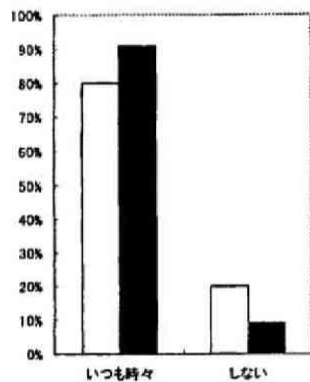
④題材の学習終了後における児童の変容の様子

《事前調査、事後調査の比較》

事前



事後



<p>*健康のために栄養のバランスを考えて食事をしていますか</p> <p>よくする時々する児童の割合</p> <p>事前80%→事後91%</p>	<p>*学校で調理実習したら家でも作ってみますか。</p> <p>よくする時々する児童の割合</p> <p>事前63%→事後85%</p>	<p>*家族のために食事作りや食事の手伝いをしますか。</p> <p>よくする時々する児童の割合</p> <p>事前51%→事後79%</p>
--	---	---

《考察》 家庭での実践を実行する児童の割合が増え、その理由として「上手くできて自信がついた」「家族にも食べさせてあげたい」「家族の役に立ちたい」などと述べている。このことから、授業の成功感・満足感が実践へと結びついていることが分かった。個々に応じたきめ細かい手だての成果と考えられる。

V 研究のまとめ

家庭部会では、本年度次の2点を重点に研究を進め成果を得た。

*個に応じた指導の工夫

児童一人一人の事前の実態をつかみ、「努力を要する」と判断される児童への具体的な手だてを指導案に盛り込み指導を行った。「洗たくをしよう」「コマーシャル大会」の学習では、事例のように一人一人の学習意欲が高められた。また、実態に沿った手だてを取ることでそれぞれの題材での基礎・基本が身に付いたと考える。また、「食事の計画」では学習につまずいている児童へ言葉かけやアドバイスタイムの設定、資料の活用、「コマーシャル大会」ではチームティーチングなど指導方法を工夫することにより、「努力を要する」と判断される児童が「おおむね満足できる」状況に、「おおむね満足できる」と判断される児童が「十分満足できる」状況に変容し、基礎・基本の定着へつながった。

*評価の工夫

「洗たくをしよう」「食事の計画」では、＜観察＞での評価を把握する方法として座席型評価記録を使い、さらに児童の実態を記号化して座席表に組み込むことで、短い時間の中でよりの確かな評価を行うことができた。また、ワークシートでは観点の分析を行い、観点別の評価をより確実なものとするよう作成し、評価の補助とした。このように評価方法の工夫をすることにより、児童の変容をとらえ一人一人の児童に基礎・基本の習得を確実なものとすることができた。

*指導と評価の一体化

指導と評価の一体化に取り組むことにより、家庭生活に関心をもち、学習意欲を高め、生活をより良くしていこうとする態度を育てることができたと考えられる。